令和6年度 国富町木脇小学校 学校関係者評価

【学校経営ビジョン】「目がとどく、声がとどく、心がとどく」教職員の実践と教職員の指導力・学校の組織力によって、「自ら学び、豊かな心とたくましい体をもち、自分のよさを発揮しながら、進んで実践する児童の育成」を図る。 4段階評価 4:達成（期待以上） 3:ほぼ達成（ほぼ期待どおり） 2:不十分（やや期待を下回る） 1:改善を要する（期待を下回る）

	評価項目（指標）		具体的目標	学校の自己評価コメント（〇:アンケート結果、◇:結果の考察・分析と改善策等）	自己評価	関係者評価	学校関係者評価コメント
進んで学ぶ子を育てる	1	基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得	〇学習5つのきまりを守れていると答える児童が80%を超える。 〇授業がよく分かると答えた児童が80%を超える。 〇家庭学習時間（集中して取り組んでいる時間）が、学年の目安時間を上回った児童が80%を超える。	〇児童・保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「授業がよくわかりますか」・・・児童94%、保護者77% ◇学習5つのきまりの徹底を呼びかけ、児童が落ち着いた学習できる環境作りを行ってきた。また、分かる授業を目指し、各学年で計画的に学習指導を行ってきた。個別の学習も児童に自信をもたせることにつながっているが、理解が不十分な児童への支援のあり方や CRT 検査等の諸検査の結果をうけての個別指導など、今後も授業の工夫改善を継続して行う必要がある。 〇家庭学習については、下学年では目安とする学習時間に達している児童の割合は78%、上学年は57%だった。 ◇日常の指導に加え、6月・2月の家庭学習チェック週間の実態把握を生かし、今後も家庭と連携して、有意義な時間となるようにする。	2.5	2.6	〇CRT は、学校や子どもの実力が判断できる材料としては必要である。 〇タブレットを活用した授業は、今は当たり前となっており、将来の大きな財産になると考える。 〇タブレット活用は、不登校の児童にもチャンスがある。 〇文字離れが気になる中、電子図書が使えるのは良いと思う。 ◇教師が子どものやる気を引き出すことが必要である。教師1人が1学級の子ども（約25人）のやる気をいかに継続させるかが大事と考える。 ◇参観日にタブレットによる学習の様子を見て、ついていけない児童がいないか不安を感じることがある。 ◇進んで読書をしない子どもたちに、「子ども新聞」（宮日日曜版）などを進めてはどうか。 ◇上学年の家庭学習の落ち込みは、思春期によるものか、ネット利用時間によるものか、気になる。 ◇ICT を学ぶ時間よりももっと大切なことがあるような気がしてならない。 ◇イベントなど、本に親しむ行事を今後も続けてほしい。 ◇タブレットやパソコンについて、児童も当たり前に使える時代になってきた。どのようなケースで使用していけば ICT をよりよく活用できるか探究するとよい。 ◇町バス等を利用し、学年毎に図書館に出
	2	学習意欲の向上	〇児童が ICT 機器（タブレット等）の使い方を理解し、学習の内容理解を深めるために、自分の考えや意見を伝えることができる児童が80%を超える。	〇児童・保護者アンケートで3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「タブレットやパソコンを使って学習することができていますか」・・・児童93.8%、保護者78% ◇授業において、ICTを活用した学習過程の工夫によって、児童のスキルも向上し、児童が進んでタブレット等を活用しながら話合ったり、発表し合ったりして、学習内容の理解を深めることができている。今後は、タブレット PC を積極的に文房具のごとく活用し、さらに身近に ICTを生かして学習進めるスタイルを工夫していく必要がある。	3	2.7	
	3	読書活動の推進	〇本に親しみ、進んで読書をしようとする児童を育てる。学期合計で、低学年は月25冊、中学年は月18冊、高学年は月10冊以上読む児童が80%を超える。	〇児童・保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「自分から進んで本を読んでいますか」・・・ 児童63.1%、保護者は35.4%と ◇読書意欲が高まるように、読書貯金や、委員会活動を中心として「読書ビンゴ」等の手立てを講じた。イベントの期間は読書量も増えることから、今後も児童が進んで読書に親しむきっかけ作りを行っていくようにする。また、学年にふさわしい本に親しめるようにしたい。さらに、県立図書館のひなた電子図書サービスを利用し、タブレット PC を活用して、進んで読書をする機会をもたせるようにしたい。	2.3	2.6	

							向き、好きな本を手にし、読書することもよいのではないか。
思いやりのある子を育てる	1	規範意識の高揚	○学校や家庭、地域が連携を図り、時と場に応じたルールやマナーを守る児童の育成を目指す。（きまりを守る児童100%）	○児童・保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「交通ルール・学校のきまりを守っていますか」・・・児童93.5%、保護者95% ◇校内における廊下歩行や無言の場、校外における横断歩道の渡り方等についての指導をさらに充実させる必要がある。また、当たり前のことが当たり前にできるような習慣化（スリッパを並べる、名札の着用、時間を守る等）をさらに図っていく必要がある。	2.6	3.1	○あいさつをする雰囲気は、以前と比べて高くなっている。 ○交差点で登校時、あいさつ・登校指導を行っている。木脇っ子は素晴らしい。 ○当たり前のことが当たり前にできる習慣化は良いと思う。大人も大切にしたい。 ○人のことを思いやる優しい子が多いと感じる。 ○進んであいさつをしてくれる児童がほとんどである。 ○今年度はネームプレートがあり、児童もあいさつしやすかったと思う。 ○六野公民館前でのスクールバスが1台となった。子どもたちはよくあいさつをするし、良い傾向である。帰りは、あいさつが少し慣れていないようだ。 ◇あいさつについては学年間の温度差を感じる。 ◇あいさつは、上学年にいくにつれできなくなっている。 ◇言葉遣いや名前の呼び方については、いじめのきっかけになることもあるので注意が必要である。 ◇あいさつについては、面識のある人にはある程度できるように思う。それ以外の人にあいさつができるかが防犯的な観点を含めて課題だと思う。
	2	あいさつ・会釈の啓発	○気持ちのよいあいさつや会釈をすることができる児童が90%を超える。	○児童・保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「自分から進んであいさつ、会釈をしていますか」・・・児童95%、保護者67% ◇計画集会委員会を中心とした各学級の輪番による「あいさつ運動」を実施し、児童が主体的にあいさつに取り組めるようにしたい。 ◇「木脇地区あいさつ大作戦」「小中あいさつ運動」を継続して取り組むとともに、できている児童への賞賛等を通して、児童のあいさつに対する意識をさらに高め、地域でのあいさつに広げたい。	2.6	3.5	
	3	思いやり（感謝や貢献の心）	○学校や友達のために、自ら進んで行動できる児童の割合が70%を超える。	○児童・保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「係や当番活動に進んで取り組んでいますか」・・・児童94.7%、保護者88.4% ◇困っている友達に声をかけたり、手伝ったりなど親切な行動が見られることもあるが、言葉遣いや名前の呼び方については課題が残る。その場での指導を確実に行うとともに、道徳教育並びに人権教育の充実にさらに努めていく。	2.7	2.7	
たくましい子を育てる	1	体力や運動能力の向上	○休み時間、体育の時間に、進んで体を動かしている児童が70%を超える。	○児童・保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「楽しく運動したり外で遊んだりしていますか」・・・ 児童92%、保護者74% ◇児童は進んで体育に参加しているが、休み時間の過ごし方、日常の生活習慣では運動する児童が少ないので、体力向上にはつながっていない。肥満傾向が高く、メディアとの付き合い方が影響しているのかもしれない。	3.1	2.7	○運動会はみんな一生懸命で楽しく参加していたので良かった。先生方の気持ちも伝わってきた。 ◇感染症の集団流行が一番懸念される。感染は防げないとは思うが、予防に努めたり、強い体作りを体育・遊び・給食等から推進したりしていけたらと思う。 ◇家庭でやるべきことへも気を配らなければ
	2	健康的な生活習慣	○手洗い、うがい、歯磨きを確実に行	○ 児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計	2.8	2.6	

		の確立	い、けが・病気の予防や立腰に努める児童が70%を超える。	・手洗い・うがい、食後の歯みがき・マスク着用…児童91.1%、保護者77.8% ◇ 手洗い・うがい、マスク着用に関する児童の意識は低下している。次年度、養護教諭と連携した保健教育に力を入れていく。			いけない時代になってきている。 ◇体を動かすことは大事である。 ◇我が娘も土日はずっとタブレットを見ている。躾が悪かったと後悔している。おなかがすくと食べている。家で暴飲暴食している証である。メディア依存の影響かと。 ◇家庭でのマナー指導は、とても大切だと思う。 ◇スポーツ少年団等に加入している子どもが、高学年になるにつれ多くなっている。運動している子とそうでない子の差が出てくる。又、ゲーム機にはまっている子どもも多数実在しているのではないか。家庭での、オンオフの指導（約束）が必要である。
	3	食のマナーの徹底	○食事のマナーを考えながら、食事ができる児童が70%を超える。	○ 児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・食事のマナーを守っている…児童94.3%、保護者64.1% ◇ 「食事のマナー」については、児童と保護者・教師の間で評価のずれが大きい。家庭と連携しながら取り組む必要がある。引き続きぱくぱくデーで啓発を図っていく。	2.7	2.5	
開かれた学校をつくる	1	家庭や地域への情報の積極的な発信と共有	○まちコミメール登録数を100%にし、常に情報発信を行い、共有できる体制づくりをする。 ○通信やホームページの更新などを月1回以上定期的に行い、情報発信に努める。	○保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「学校は、お知らせや文書、通信等で、取組や児童の様子を伝えていますか」・・・87.9% ◇肯定的な評価が9割近くあり、概ね情報発信は効果的に行うことができていると言える。特に、管理職の先生方を中心に行ってもらっているホームページ更新は効果的であると考える。また、毎日学級通信を発行している学級もあるなど、職員も情報発信に積極的に取り組んでいると言える。しかし、昨年度と比べると、0.5ポイントマイナスとなっており、情報発信の在り方を改善していく必要もある。例えば、大きな行事だけでなく、日常的な出来事をホームページに随時アップできるよう、ホームページ更新についての職員研修を行う等をしていきたい。	3	2.9	○こども園との交流を快く受け入れていただき、有意義な時間を過ごすことができた。 ○地域に開かれた学校づくりを、学校、保護者そして地域と共有、協働することが以前より推進できていると思う。 ○合唱参観はよいと感じた。小中近いので、やりやすい。 ◇下校見守り等、行動に移したことが良かったが、思い切ってなくすことで良くなっていくこともある。 ◇区を通じて、学校情報を発信できており、今後も提供してほしい。LINE等に切り替えた方法も検討してもいいのではないか。 ◇ホームページを見ていなかった。 ◇情報を共有し、家庭への文書通信等をたくさんしてほしい。 ◇通信は、回覧版を見ている。行事等もわかり、情報発信されている。HPについては、なかなか見る機会がなく学校関係者以外の地域住民は知らない方も多いと思う。HPの存在の情報発信を工夫してはどうか。 ◇学校運営協議会で討議された内容が周知されていない。町の広報誌などで取組を発信すべきであると思う。
	2	コミュニティースクールとしての取組を核とした各種連携・協働の推進	○学校運営協議会を中心として、地域と学校が目標を共有し、協働活動を推進する。 ○コミュニティースクールと地域学校協働活動を一体的に推進し、地域人材の積極的な活用を図る。 ○キャリア教育に関心をもち、自分の将	○保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「学校は地域や保護者の方々と一体となって教育を進めていますか」・・・83% ◇本年度も保護者や地域の方々と協力した学習を数多く行うことができた。また、学校運営協議会が中心となり、地域全体でのあいさつ運動や、地区児童会に地域の方に参加していただく活動等も継続して行うことができた。本年度は、新たに、地域と一緒に下校見守りを行ったり、フェスタで地域の業者に入っていただいたりするなど、より地域と密着した活動を行うことができた。それが、昨年度より7.1ポイントの肯定的な回答アップにつながったと考える。しかし、依然として「分からない」という回答もあり、さらに情報発信を行っていく必要がある。	3.1	2.9	

			来について考えさせる。				
	3	関係機関との連携	○連携型小中一貫教育を推進する。 ○幼保小中連携や青少年育成協議会、社会福祉協議会等の連携・協働を行う。 ○町福祉保健委員、教育相談員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等との連携を行う。	○保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「学校は、中学校や関係機関と協力して活動していますか」・・・74.3% ◇本年度は、昨年度までの小中あいさつ運動や幼保連携の話し合い等に加え、中学校での合唱参観や、保育園児童との交流などの活動を行うことができた。また、特別支援教育コーディネーターが中心となり、支援が必要な児童について関係機関との連携を行ってきた。それらが評価され、昨年度よりも6.4ポイントアップにつながったと考える。しかし、肯定的な評価が7割程度であることや、「分からない」という回答が16.4%もあることから、取組への理解が広まっていないことを感じた。今後もさらに関係機関との連携を深めていくとともに情報発信を積極的に行っていきたい。	3.1	2.7	
特別支援教育	1	教育的ニーズに応じた指導や支援の充実	○学期に1回のアンケートで、「学校が楽しい。」「どちらかといえば楽しい。」と答える児童が80%を超える。	○児童アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「学校は、楽しいですか」・・・94.6% ○保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「学校は、常に児童理解に努め、児童の実態に応じた指導や支援を行ったりしていますか」・・・78.2% ◇年度初めや学期終わりに、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成する時間を行事予定表に明記することにし、計画的に作成、活用できるようにする。	3.2	2.7	◇学校に行きたい、行かなければと思うようになってほしい。親の教育かと。 ◇送り迎えではなく、しっかりと自分で登下校する子どもになってほしい。 ◇先生方は大変だと思うが、家庭と連携をとって、保護者と先生方の意思向上を願います。 ◇肯定的な回答でない20%の児童との関わりを重視し、学校全体で取り組めるような、ゆとりのある学校体制がもてるように、国がもっと考えてくれたらと思う。
	2	校内の支援体制や環境の充実	○学期に1回のアンケートで、「学習のことで困っていることがありますか。」で、はいと答える児童が20%を下回る。	○保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「学校は、教師間で連携をとって指導にあたったり、支援ができる体制を作ったりしていますか。」・・・66.7% ◇保護者としては、昨年度よりも連携がとれていると感じている割合が上がっている。担任との連携を高める工夫をしていきたい。登校渋りや不登校の児童が増えてきているので、学校、保護者、関係機関を含めた支援体制が作れるようこれからも努めていく。	3.3	2.5	